



- 自分で考え進んで実践する人間
- 公共心に富み情操豊かな人間
- 勤労を尊び責任を重んじる人間
- 健康でたくましい人間

『優しさ』と『思いやり』

校長 関 勝 志

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

今年は辰年です。他の干支は実在する動物なのに、なぜだか辰（龍）だけが架空の動物です。龍は古来より中国で権力の象徴とされ、縁起の良い生き物とされています。実在はしませんが、力強さや勢いを感じます。よい年になることを願っています。

元日、多くの人たちが、よい年を願い、新たな決意を胸に秘め、楽しいときを過ごしていた最中、石川県能登半島や北陸地方を大きな地震が襲いました。翌日には羽田空港において被災地に物資を輸送する海上保安庁機と日本航空機が衝突するという信じられないような事故が起こりました。多くの尊い命が奪われました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りします。

被災地の状況が伝えられる度に、想像を絶する被害の大きさに言葉を失い、胸が痛みます。そんな中、住民の方々は井戸の水や発電機の電気を分け合ったり、自分たちで避難所を開設しルール作って運営したり、助け合って生活をしています。90代の女性が地震発生から124時間後に奇跡的に救出されました。命を大切に、必死に生きようとしている人たちの姿を忘れてはいけません。

また、炎上した日航機から乗客乗員379人全員が無事に脱出したことが「奇跡の18分」として報道されました。90秒脱出ルールや客室乗務員の咄嗟の判断など、徹底した訓練に裏付けされたものです。

きっと誰もが、被災地の「力になりたい」と思ったことでしょう。しかし、被災地から伝えられたのは「ボランティアは控えてほしい」というメッセージでした。理由は、渋滞が起きて水や食料が届かなくなる、市職員がボランティアの電話対応により業務が妨げられる、倒壊家屋の危険性が高いなどでした。

日本では、29年前の阪神・淡路大震災が「ボランティア元年」と呼ばれ、災害ボランティアが広がる契機となりました。ボランティアが自衛隊や消防など公的機関と同様、被災地の復興に欠かせない存在となっているのは事実ですが、行政との役割分担や支援の受け入れ体制の整備などの課題もあるようです。

優しさや善意だけではだめなのだとことを実感しました。

「こころ」はだれにも見えないけれど 「こころづかい」は見える
「思い」はだれにも見えないけれど 「思いやり」は見える

このフレーズに聞き覚えのある人もいるのではないのでしょうか。13年前の東日本大震災直後に、テレビCMで放送されていたACジャパン（旧公共広告機構）のCMです。これは詩人である宮澤章二さんの『行為の意味』から抜粋されたフレーズです。「心づかい」や「思いやり」の気持ちは誰もがもっているものなので、勇気をもって形に表そうというメッセージです。

あなたの「こころ」はどんな形ですか と ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない けれど ほんとうに見えないのであろうか
確かに「こころ」はだれにも見えない けれど 「こころづかい」は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の「思い」は見えない けれど 「思いやり」はだれにでも見える
それも 人に対する積極的な行為だから
あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も 初めて美しく生きる それは 人が人として生きることだ



「優しさ」とは、心温かく思いやりがあること、他人に善意を施す（目に見える形で親切にする）ことです。わかりやすい行動ですが、本人が良かれと思った言動でも相手がどう思っているかは分からないものです。もしかしたら余計なお節介だと思っているかも知れません。それでも相手に対して「何かをしてあげたい」と思う気持ちが「優しさ」です。

「思いやり」とは、他人の気持ちを考えて行動したり気配りすることです。親切にすることもあれば、あえて黙って見守ることも、苦言を呈することもあります。

「優しさ」も「思いやり」もとても大切なものですが、相手の気持ちになるのは簡単ではありません。でも、気持ちを分かろうとする姿勢に意味があるのだと思います。その瞬間、きっと心と心が繋がります。

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」というように、3学期はあっという間に過ぎていきます。1年生はスキー移動教室、2年生は都内めぐりがあります。主体的に取り組み、楽しい思い出を作ってください。3年生は高校入試が始まります。「人事を尽くして天命を待つ」の気持ちで頑張ってください。

演劇部『ラファイエラ黙示録』

四中演劇部が、昨年に続き北多摩中学校演劇発表会で高い評価をいただき、都大会へ出場しました。さらに演技に磨きがかかり、ユーモアとバイタリティあふれる演技に何度も笑いが沸き起こる中、落ちこぼれ高校生が悩みながらもしっかり前を向いて生きていこうとする姿がリアルで印象的でした。幕が下りても、会場の拍手はいつまでも鳴りやみませんでした。

3月2日(土)の展示発表会において、生徒及び保護者の方々にもご覧いただく予定です。

以下は、顧問と部長さんのコメントです。



演劇部顧問 猪俣 裕紀

この5か月、楽しく、真剣に、そんなことを考えながら練習してきました。北多摩大会(地区大会)を突破するために練習した4か月、都大会に向けて練習した1か月は今思うと、夢のようなひと時でした。

毎年、練習をしていると一度は思うことがあります。この劇で都大会に行けるのか、お客様から拍手を頂けるのか、そんなことが不安になります。けれど、そんなことを悩んでいても、何も進まないの自分たちの力を信じてとにかく進む。今年度の劇づくりも色々なことがありました。中学生が22人で、1つの劇をつくらうとしている訳ですから、それはもう色々なことがありました。そして、1つの劇を上演するには誰一人として、いなくていい部員などいないのです。ましてや都大会に行きたいなどと思ったら、一丸となって練習しなければなりません。1人がみんな(仲間)のために演じることが必要です。

それでもまた、今年度もみんなで1つの目標を追いかけることができました。そして多くの拍手をもらい、部員たちと喜びを分かちあってきました。

上演を観てくれた皆さま、保護者ならびに応援してくれた地域の皆さまにはあらためて感謝申し上げます。『ラファイエラ黙示録』の劇づくりを通して、部員たちと過ごす日々は私にとってもかけがえのないひと時です。

2年E組 赤峰 大和

『ラファイエラ黙示録』の劇づくりを通して、僕は「仲間とは、嬉しいときも悔しいときも一緒になって笑いあい、泣きあいたいと思える人たちだ」ということを学びました。

舞台の幕が上がる時、最後まで僕を応援し、言葉をかけてくれたのは長い練習の日々を一緒に乗り越えた仲間たちでした。幕が下りた後にハイタッチをしてくれたのは意見がすれ違い、よくケンカした仲間でした。都大会の帰り道に、今日はよくやったと励ましあったのは、いつもくだらない話で笑いあった仲間たちでした。都大会の日、僕は仲間たちの笑顔と勇気に支えられてばかりでした。また、この仲間たちと演劇がしたい。上位大会に進むため、その一心で僕は舞台に立ち、演じていました。(僕の仲間たちも同じ気持ちなら嬉しいです。)

僕は3年生の先輩たちのような、かっこいい先輩になれた自信はありません。ダサいところも、情けないところもたくさん見られてきました。それでも僕についてきてくれる、ちょっと生意気なところのある後輩たちがいて、僕をしっかりと叱ってくれる同期(2年生)がいて、僕はこの仲間たちと都大会の舞台に立てて本当によかったです。きっと僕ほど幸せな役者は他にいません。

仲間とは嬉しいとき、悔しいとき、一緒になって笑いあい、泣きあいたいと思える人たちのことです。

■生徒の活躍■

◇ソフトテニス部◇

多摩東部(9・10・11ブロック)大会 団体戦準優勝

小平市冬季大会 個人戦 2年生の部 優勝:逸見・宮永組 準優勝:秋山・井本組

1年生の部 第3位:今村・島崎組

◇スキー◇

小熊 健祐 東京都中学校総合体育大会 男子回転の部 1位 16秒78

※2月6日(火)から開催される全国中学校スキー大会(大回転・回転)に東京都代表として出場

■2月の主な行事■

2日 2年生校外学習(都内めぐり)	16日 避難訓練 中央委員会
5日 全校朝礼 安全指導	19日 生徒会朝礼
7日 中学校体験入学(小学6年生)	21日 都立高校一次・分割前期入試
9日 新入生保護者説明会	学校保健委員会
10日 私立高校入試(12日まで)	27日~29日 学年末考査
15日 専門委員会	

教職員の改姓のお知らせ

特別支援教室「一橋」で巡回指導を担当している、西澤ちはる先生が、ご結婚され、改姓しました。3学期から、谷川ちはる先生となりました。よろしくお願ひします。

